

HUMAN RIGHTS

第34回講談社出版文化賞・絵本賞を受賞

絵本『おたまさんのおかいさん』

～絵本で語りつぐムラの誇りとまちおこし～

日之出の絵本制作実行委員会（大阪市）

●日之出の絵本制作実行委員会の活動

部落差別と貧困の中を助け合って、しぶとく生き抜いた先輩達の生きざまをムラの誇りとして、21世紀を担う子ども達に伝えたいという思いから、2001年9月、地元の父母、地域の保育所、小、中、高校の教師ほか有志ら30数名で発足。絵本完成後も朗読活動、啓発活動、絵本制作の支援活動を行っています。絵本賞の受賞は、熱い思いがあれば絵本が作られるのだという希望を与えていただきました。

●絵本の内容

おたまさんが隣近所の人々と「おかいさん」を分かち合いながら生きていく姿を描きました。おたまさんが唱える「おかいさん おかいさん ぐつぐつ ぶつぶつ こーい こーい。さあや はえ やれ ひとつまみ ぱっ」の呪文。「こーい こーい」は地域に伝わる子守り唄から、「さえ はえ やれ」は、地域に伝わる中島音頭から採用しました。

●肝っ玉おたまさんは実在した

「おたまさんは」は、山中タマエという実在の人物でした。肝っ玉が太く、困った人をほっとけ



保育所での読み聞かせ

ず、夫婦喧嘩をおさめたり、ヤクザに意見したり、バクチも好きという一面もありました。5歳からマッチ工場に住み込み、読み書きは一生出来ませんでした。布団の仕立ての仕事で、孫二人の面倒をみました。孫が始めた子ども会や部落解放運動の一番の理解者でもありました。今年は、子ども会創立50周年、支部結成45周年になります。

●これからは「静かな暖かみのある運動」

・文化活動の出番

たった一冊の絵本ですが、この絵本のお陰で人と人のつながりが広がっています。書店、図書館や朗読グループの皆様のご尽力で、全国各地で原画展が開催されています。7月には山形市で開催されました。保育所、幼稚園、学校、地域の図書館、市民講座で、平和教材として、戦後の生活を学ぶため、部落問題学習の導入など、多様な切口中で活用がされています。「おたまさんのふるさとを訪ねて」のフィールド・ワークにも全国各地から来ていただいています。2005年1月にホームページを開設予定しています。

絵本購読・原画展・フィールドワーク・講師派遣の
申し込みは：新大阪人権協会 中尾まで
TEL 06-6322-6985

(原画は無料です。但し保険を掛けてもらっています。
送る時は郵送料を負担してもらっています。)

